

「芽亜利・J ワンマンライブ」に枯れることなき東筑魂を見た。

東京東筑会会報編集長 三好 尊信 (八四期)

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。

キンコンカンコンと始業のチャイムが空から響いてきて、その余韻が豊かに残るステージで「竹取物語」の冒頭が朗読される。まるで、古文の授業のように。読んでいるのは、たっただいまピアノの弾き語りを一曲披露し終わった芽亜利J。

六月二日、青山マンダラ。その有名なライブハウスで東筑の二学年上の先輩がワンマンライブをやると聞き、かけつけた。開演までまだ時間があったが、すでにほぼ満席である。店員が困っている私を見つめ、残り少ない席のひとつに案内してくれた。

客席を見渡してみると、観客の年齢層の広さに驚かされた。年配の方々も、かなり多い。上品でいかにもセレブといった方たちも見受けられる。若者も多い。しかし落ち着いた着があり、開演間近の緊張感をビールやカクテルとともに楽しんでいた。

やがてホールが暗くなり、ステージに芽亜利Jが登場。すると、テールの向かいに座っていた四十半ばと思しき女性の目が大きく開いて輝く。胸をふくらましながら身を乗り出すのが、暗がりの中でもはつきりと判った。それほど、このステージを心待ちにしていたのだ。

ピアノを弾いて歌い始めるとすぐに、「聴かせ慣れている」と判る。音楽が好きなの

私は、こんな先輩がいたのかと驚き、もともと早く会っておくべきだったと後悔した。

客に対して横向きに座ってピアノを弾く芽亜利Jは、歌いながら何度も何度も顔を客に向けて。自らが生み出した曲を、ピアノと歌と表情、全身全霊を尽くして伝えようとしているのだ。私はステージに耳を向け、客席に目を向ける。聴衆は、芽亜利Jから発せられるすべてをしっかりと受け取っているようだった。

二十数年前の記憶の抽斗にその顔がないか探してみたが、見つからない。先輩とは初対面のような。会ってみたら顔見知りだったということになれば面白いと密かに思っていた。しかし、約二年間同じ場所に通いながら、在校中には縁がなかったようである。通学経路が違っていたし、放課後は、先輩はテニスコートにいて、私は体育館にいたのだ。だがそれでも、東筑という絆は時を超えて人を巡り合わせる。

芽亜利Jは、ドレスの上に桃色の着物を羽織り、「かぐや姫」を演じてみせる。現代語で喋る、現代の少女としてのかぐや姫。時代を交錯させることで、古語で綴られた空想の美女は、身近でリアルなアイドルになった。かぐや姫のイマドキぶりや、かぐや姫に求婚した男たちの悲惨な結末に、観客は笑い声をあげる。高校の古文の授業中、居眠りの束の間に見た夢の再現であるという。すべての観客が、とにかく楽しそうに芝居

や足し算をすることで、芽亜利Jの年齢がだいたい判る。その十歳で、二人の子供の母である彼女が、老若男女のファンを大勢集めて、青山の有名店でワンマンライブをしている。スゴい。

しかも聞くところによると芽亜利Jはほぼ毎週、川崎市の某所で「路上ライブ」を行っているそう。簡単には信じられないことである。先日、東筑のある集まりにお誘いしたが、それは路上ライブの日だった。いつも聴きにきてくれる皆さんのために路上ライブを休めない、当然、断られた。路上ライブに集まるファンの中には二十代の男性もいるらしい。

それ以外の演奏活動、インターネットでの発信などにも精力的に取り組まれていて、日々忙しい。彼女のパワーたるや、凄まじいのである。樋口さんの若々しくエネルギッシュで

を観ていた。

芽亜利Jは「竹取物語」を子育てのドラマだと解釈した。子供を育てる者として親の視点で物語を捉え、逆に育てられる身の少女として芝居を演じている。ユーモラスに展開するモノローグで、自らの母性と少女性を見事に共演させていた。

芝居仕立ての第一部が終わると、撮影会。カメラや携帯電話を手にしたファンたちが、前にしゃしゃり出る。花束も贈られた。

休憩後に始まる第二部は、ギター、ベース、ドラムスを加えたロック仕立てとなっている。芽亜利Jは、ピンク色のボクシンググローブを手にはめて颯爽と登場。

ギター、ベース、ドラムスが音を立て、ぶ厚い壁にぶつかってホールを震らす。芽亜利Jがボクシンググローブをはめた腕を振り回すと、長い髪が金色に光って跳ねた。観客



真つ直ぐな前進指向と文武両道(子育てと音楽活動)の精神は、まさに東筑魂と呼ぶに相応しい。私は高校時代に先輩方から受け継いだそれを、いま再び受け取った。

八〇期代には才能とパワーに溢れる同窓生が他にも大勢いるに違いない。東京東筑会においては、八〇期代の層が薄く、会員の掘り起こしが課題となっている。つまり逆に言えば、これから沢山の才人たちの出会いが待っているということである。今年、いよいよ八〇期が当番期を迎えた。そして既に八二期の方々もかなり集まってきたと聞いている。東京東筑会の今後は、実に楽しみである。



PHOTOGRAPHS ©2010 NORIYUKI AWATO

退職間近!まさかの再会。何故わざわざ東京で?

第2回 東京ビシ会

2011年2月開催予定

体育の石橋和子先生を囲む会を東京で開催します。
第1回目は、数名に声をかけただけで20名が参集しました。
第2回目は、アルカディア市ヶ谷の大ホールで開催したいと思います。
参加したくない方は、84期・三好または89期・櫻木まで!

ただいま「被害届」を募集中!

love@miyosix.biz